

藤沢市総合教育会議 議事録

会議名	平成 27 年度第 2 回 総合教育会議
開催日	2015 年（平成 27 年）7 月 8 日（水）14:00～14:47
場 所	森谷産業旭ビル 4 階 第 1 会議室
出席者 (敬称略)	(市側) 鈴木市長 (教育委員会) 関野真一郎、小竹伊津子、阪井祐基子、井上公基、吉田早苗 (関係職員) 子ども青少年部長、生涯学習部長、子育て企画課長、生涯学習総務課長 教育次長、教育部長、教育総務課長

【議事録】

事務局（司会）

- ・ただいまから平成 27 年度第 2 回総合教育会議を開催いたします。
- ・本日、傍聴される方で録音、録画、写真撮影等行う予定の方は挙手をお願いします。（なし）
- ・それでは、開会にあたり、総合教育会議の座長である鈴木市長にごあいさつをお願いいたします。

鈴木市長

- ・教育委員の皆様には大変お忙しい中、第 2 回総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。
- ・さて、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックのセーリング競技の会場が江の島に決まりました。これはひとえに日ごろから清掃活動等を通じまして、市民の皆様の地道な活動により、よりよい環境が存在したということも大きな原因になっていると思っております。それらは 1964 年の東京オリンピックのヨット会場のとき以来、つないできたという経過があると思っております。
- ・1964 年のオリンピックのときは市民の皆様の意識が大変盛り上がり、市民憲章を策定いたしました。そしてまたオリンピックの競技の中でも 2 人乗りのスウェーデンのヨット艇が独走していたのですが、100 メートルぐらい後ろのオーストラリア艇が突風で転覆して、選手が投げ出された。そしてスウェーデン艇は戻って助け、結果的には 11 位になりましたけれども、このことが翌日の新聞でも人類愛の金メダルであると称えられておりました。こういったことを間近に見て、藤沢市民の皆様へ先人たちがつないでくれたおかげもあると思っております。
- ・こういったことを土台にして、これからのオリンピックも契機として、青少年たちが夢と希望を育

めるような大綱にしていけたらと思う次第でございます。委員の皆様にはいろいろとご意見をいただきながら、より良い形にまとめていければと思っております。今日はありがとうございます。

事務局（司会）

- ・本日、関係職員として子ども青少年部、生涯学習部の職員が出席しておりますので、自己紹介をさせていただきます。（職員自己紹介）
- ・続いて、本日の資料の確認をいたします。（資料確認）
- ・それでは、議題（1）「議事録署名人について」、説明いたします。

事務局

- ・本日の第2回総合教育会議の議事録署名人は、関野委員と鈴木市長にお願いしたいと思います。

事務局（司会）

- ・議事録署名人は鈴木市長と関野委員にお願いすることでよろしいでしょうか。
（「異議なし」の声あり）

事務局（司会）

- ・続いて、議題（2）「教育に関する大綱（素案）の策定」について、説明し、それ以降は座長である鈴木市長にお願いいたします。

事務局

- ・それでは、資料に沿って説明いたします。（資料参照）
- ・前回の会議で、「教育に関する大綱」の考え方をご説明いたしました。大綱については教育現場に限ることなく、地域全体で子どもの健やかな成長を支える取り組みを進めていきたいとして、わかりやすい理念やメッセージ、また、子どもたちを取り巻くさまざまな団体なども共有できる広がりのあるキャッチフレーズとしてまいりたいと考えております。今後の事務局での大綱の策定作業に当たり、ぜひご活発な意見交換をいただき、キーワードをたくさんいただきたいと思っております。

鈴木市長

- ・説明が終わりました。早速、議題（2）「教育に関する大綱（素案）の策定」について、協議をしていきたいと思っております。委員の皆様、ご意見等お願いいたします。
- ・それでは、まず私の方から数点申し述べて、その後、委員の皆様から意見、提案等をいただき、すり合わせながら、より良いものをしていきたいと思っております。
- ・先ほど、オリンピック・パラリンピックの話をしましたけれども、前回の大会を契機とした取り組みも大事であるということ、特に会場市として大変期待も大きいのではないかと考えております。そういう中で、前回の会議での児童生徒の体力度調査の結果などを見ると、満足な状況ではないということで、これからの高齢化社会に向けても基本的な体力を子どものころから養っておくことが大事かと思っておりますので、「スポーツ」あるいは「元気」ということを視野に入れていったらいかかと思っております。

- ・また、これからの時代は「人の和」というものが大事になってきます。地域で支え合っていくという感覚を子どものうちから持っていかななくてはいけないとも思っております。そういった中で「家庭・学校・地域・行政による学びの環」について、考えていく必要があると思っております。
- ・藤沢は文化、歴史、資産がたくさんありますので、いろいろなことを知って、文化芸術活動も考えていったらどうかと思っております。
- ・それから藤沢は「地域の縁側」という事業を行っていますが、そこには多世代にわたるものが多いので、地域における世代間交流ということを深めていけるようなものも必要ではないかと思っております。
- ・そして学校というものを1つの拠点というか、プラットフォームとした取り組みについて議論をしていくことも大事であると思っております。また、いつも教育長が言っている「であい、ふれあい、ささえあい」については、私も同じ気持ちであります。
- ・最後に、1964年のオリンピックを契機に、市民の盛り上がりで「市民憲章」がつけられたわけですが、そういった盛り上がりと同時に、次世代を担う子どもたちの芯となるようなものを「市民憲章」を大事にすると同時に、考えていったらいかかなと思っております。こんな形で意見を述べさせていただきましたけれども、皆様からもぜひお願いいたします。

阪井委員

- ・生まれてから死ぬまでが人生を通しての学びであるということを考えると、この学びを通して人と社会が結びついていく、その中には横のつながりとして人と社会の結びつき、縦のラインとして郷土に対する歴史とか愛情といったことがあると思いますので、それをクロッシングさせたような形の大綱になればいいのではないかと考えます。

関野委員

- ・市長からオリンピック・パラリンピックの話がありましたけれども、湘南の元気都市をつくるには、元気な子どもたちの力が必要ですので、せっかくの機会ですので、オリンピック・パラリンピックに関するものをもうちょっと入れていってもいいのかなという気がします。

小竹委員

- ・教育並びに文化の向上には、以前からも取り組まれていて、だんだん成果が出ていると思いますけれども、ここに来てオリンピックの開催都市ということで、内側からも外側からも注目を浴びているので、ちょっと弾みをつける良い機会だと思います。この機会に体力とか元気力を含めて、もう一度地域の文化とふれあい、基本的な生活、体力、教育がクロッシングできるような大綱がつけられればいいかなと思います。

井上委員

- ・このオリンピック・パラリンピックを契機に、藤沢の体力ということが気になっておりましたので、その辺の体力をつけていただくような大綱になればいいと思っております。その他に学力も当然つ

けてもらわなければならないし、道徳教育という面も含めた上で、「未来を拓く学びの環、藤沢」というところに結びつくのではないかと思います。

吉田委員

- ・今、座長からたくさんキーワードをいただいてしまって、どんな意見を言おうか考えていたところですが、昔から言われている知・徳・体を育成することで、子どもたちがバランスのいい人間性を育てていくことができるような状況がつかれるといいと思います。私が就任してから教育委員会の方は、事務局として教育部のみという形なので、なかなか生涯学習の方まで目が向かなかつたりしていますけれども、このところ「ゼロ歳から生涯にわたる教育」というようなことも言われておりまして、子ども青少年部との連携も図りながら進んできていると思います。私のキーワードとしては「笑顔」ですが、笑顔がすべてを網羅するというわけでもないですが、よく子どもに「笑顔が大事よと言っていますが、命は大事ではないの」と質問されることがあるのですが笑顔の奥に大切にしなければいけないものがたくさんあるのではないかとというのが私の思いの部分です。
- ・それから市長がよくおっしゃる「人の和」、これをどういった形でのコミュニケーションを取っていくのかということで、今、市を挙げて行っている地域包括ケアのシステム「藤沢版」の構築というのがありますけれども、そこに学校をどうやって入れ込んでいくのか、教育をどんな形で入れ込んでいくのかというのも課題かなと思うのですが、「地域の縁側」も含めて地域の中で生きる子どもたちを、地域に育てていただくことから、多世代の交流、昔ながらのいろいろな交流ができる地域に「あいさつ」の輪が広がっていくといったことができたらいいかんと思っています。
- ・オリンピック・パラリンピックにかけての体力もさることながら、体力調査については1つの指針であって結果がすべてではなく、生き抜く力とか子どもたちが自分でいろいろなことができるためにどういった体力をつけていくのかということが主眼ではないかというふうにも考えています。オリンピック・パラリンピックを、1つの契機として、あるいは「おもてなし」の精神でいろいろな国の人と交流を図る、そういったことにも目を向けていきたいと思っています。市長がたくさんおっしゃった体力の件、人の和の件、歴史・文化の件、地域とのつながりで学校が拠点となるような地域づくり、そして笑顔、ふれあい、支え合いという人間関係づくり、そういったいろいろなことを網羅して、「ゼロ歳から生涯にわたる教育」のキャッチフレーズができれば、すてきかなと、壮大な思いだけで、まだ言葉が浮かんでこないのが現実です。

鈴木市長

- ・皆さんからご意見をいただきましたが、同じような土俵にあるのかなという思いを感じました。大綱に余りたくさん項目を並べてもいけないでしょうから、いろいろな角度から見て絞りながら、また、わかりやすいということも大事だと思いますし、親しみやすい形にしていければと思っています。そういう中で、教育委員会だけでなく、子ども青少年部、生涯学習部等とも横断的連携を取りながらつくっていければと思っています。
- ・具体的な話は、すりあわせを行う中で次回以降具体的にしていきたいと思いますが、皆さん

の方からもう少し強調しておきたいというようなことはありますか。

阪井委員

- ・藤沢市には「市民憲章」がありまして、わかりやすい言葉で5つの項目になっていると思いますので、市長がおっしゃったように、たくさんものを伝えるよりも、わかりやすく5つぐらいの市民憲章のような形でまとまっていくと、市民にもわかりやすいものになるのではないかと思います。

吉田委員

- ・教育は多岐にわたっているので、1つ大きな冠的なもの、市民憲章というか、藤沢教育大綱となるでしょうけれども、それぞれの分野にかかるような形で整理するか、一つひとつの文言を並べていって全部絡むような形にするのか、迷っているところですけども、皆さんが読んで、「なるほどね、これはこの分野だね、なるほどこれはこうだね」という風な形の文言になるといいかなと思います。余りたくさんではなくて、大きな括りがあって、3つぐらいかなと思います。

鈴木市長

- ・これからの社会のあり方等も視野に入れた中で、これからの教育をどういう風にとらえていくかということもしていかなければいけないと思っております。特に、先ほど言った「人の和」、「パートナーシップ」ということが、子どもの小さいころから発揮できるような基礎をぜひあらわしていきたいと思っております。体力があって、人の和があって、また元気になってくるのではないかと考えておりますので、そういった流れも大事にしていければと思っております。
- ・また、「地域」も大事なフレーズですし、藤沢の歴史、文化を知っていただくことも大事な地域意識を強くしてくれるものではないかと考えておりますので、そういったことをどのようにとらえていくかは、また、すり合わせをしますけれども、こういったことも大事かなと考えております。
- ・それから学校のプラットフォーム化ということで、どのようなことを盛り込めるか、こういったことも大事ではないかと考えております。そういうことを試行錯誤しながら、あらわしていければと思っております。他に何かありますか。

関野委員

- ・「藤沢市教育振興基本計画」が既に制定されておりますけれども、その3つの目標の中で「一人ひとりの夢を育み、未来を拓く子ども（藤沢っ子）を育成する」というのがありますが、これは重要なことだと思います。今日も午前中、3つの中学校を訪問しましたが、せっかく藤沢に生まれて育てている子どもたちなので1人残らず夢を育めるようなまちにぜひしていきたいと普段から思っていますので、子どもたちが夢を見られるようなまちをつくっていくところを盛り込んでいきたいと思っています。

鈴木市長

- ・こういったことを参考にしながら、案をつくって次回、皆さんにお示しをしていきたいと思っております。他にこの件については、まだ入り口論ですけども、何か言い足りないことがありましたらお願い

します。 ないようですので、それでは、この件はよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

鈴木市長

- ・続いて、議題(3)「予算に関する要望」について、説明をお願いいたします。

事務局

- ・予算要望等については、今年度新たにスタートした事業をはじめ既存事業の拡大など、子どもたちの健やかな成長を視点にした予算化による取り組み、また、今後、取り組むべき施策など委員の皆様でご協議をお願いしたいと考えております。

鈴木座長

- ・ただいまの説明に対して、何かありますか。

阪井委員

- ・先日来、小学校、中学校と学校訪問をして感じるのは、小学校1年生でも学校に通いづらくなっている子どもがいたり、中学校に上がったところで学校になじめにくくなっている子どもたちを見たときに、子どもの学びの接続をスムーズになだらかにしていくことは、とても大事なことはないかと思います。そして、今日は子ども青少年部長もおいでですけれども、幼、保、小の連携という形を考えていくことによって、さらになだらかに小学校に上がっていく、中学校に上がっていくことができるのではないかと思うので、そういうところを実現していくために予算をつけていくことが必要ではないかと感じました。

鈴木市長

- ・他にありますか。
- ・それでは、お話をさせていただきます。今年度については小学校の校務用のタブレット端末を配置したり、学校施設の再整備計画の具体化に向けた耐力度調査等も行っております。また、昨今では子どもをいじめから守る条例の周知・啓発を行っております。さらにスクールカウンセラーの増員、中学校給食の試行拡大は27年度に行っております。そして来年度についてもさらに、今お話がありましたように、学校がスムーズに運営できるようなことをしていきたいと思っております。その中で、そういったことも検討していくべきことであると思っております。

吉田委員

- ・市長からもお話がありましたが、今年度も教職員の多忙化を解消するための方策、さらに人をつけていただくような配慮をかなりしていただいています。それから教育委員会としては支援教育を進めていくということで、困り事を抱えているすべての子どもたち一人ひとりに向き合っていくましようという働きかけをしていますが、これも先生方が、今以上にやれととらえるのではなく、本来、先生方が一番やりたい子どもたちの心、学びの育成をしていくための1つの方策と考えていただくとありがたいですし、それに向けては、スクールカウンセラーとかスクールソーシャルワーカー

を増員していただいている、専門家の知恵も借りています。文部科学省では改めて「チーム学校」というのを提唱して、その中に外部機関、専門家を入れるという話をしているのですが、藤沢の場合は早々と図書館専門員を入れていただいたり、スクールカウンセラーとかスクールソーシャルワーカーをつけていただいているような状況があります。

- ・教員のいろいろな子どものみとりとか、授業の仕方ということも学んでいかなければいけない1つですが、専門的な知識をいただくことがどんなに助けになるかということも重々承知をしているところです。また、小学校は給食の公会計化もしていただきましたので、その分、業務が少し減っているかなという思いもあります。
- ・中学校の方は昨年度から校務支援システムを入れていただきまして、今、先生方がどこの学校に行っても大丈夫なようなシステムになっているところですが、さらにそれをバージョンアップして使えるようになっていくと、多忙が少し減るかなと期待しているところです。それから中学校の場合、小さい学校ですと教科専門の先生が定数枠に入りにくいことがありまして、市費講師という制度を使っていることにより、許可免といって、本当は教科の免許を持っていないけれども、校長が許可することによってその授業ができるというシステムを使うことなく、専門の先生をつけていただいているという状況もあります。そういった意味で言うと、白浜養護学校も子どもが大変増えてきており、今年度バスの方も増員していただいたということもあって、ここ1年の間にたくさん教育委員会の方に支援をしていただいていると思っています。さらに学校には人が大変必要だということを感じていまして、人を教育するのに人にまさるものはないのではないかとこの部分と、それをもっと活用するために機器をどう入れていくかというあたりで、小学校についてはパソコンが非常に少ないところを今年3台入れていただけることになりましたので、いろいろな活用の仕方をしていくといいかなと思います。教育委員会の考え方としては、まず学校に人的支援をしていただきながら、環境整備をしていただけたらそれに越したことはないと思っています。その環境整備は校舎とか建物に関するものもありますし、ICT環境と言われている機器類をそろえていただくことでもあり、それが教員の多忙を少しでも解消して、子どもたちと向き合う時間が増えていってこれればいいなと願っているところです

井上委員

- ・最近の教育現場は多様化しているということで、各現場の先生方は忙しくされており、今までと違った形で対応しなければならない場面が大変多くなっているということから、教員を充実することが最低限、必要になってくると思いますので、人的配置というのは重要なキーになると思っておりますし、それをこなす道具が必要になってくるということでIT化も必要になってくるだろうと思います。もう1つは、学校環境の中で、そういったものも大事ですが、全体として醸し出せるような雰囲気ということになると、今、学校の耐力度調査を実施し、これから改修工事等が始まるわけですが、30年、40年前につくられたものの廊下を見ますと、Pタイルとかが大変多くなっていますので、そういったところも、もうちょっと温もりのある木材などを使うとか、

そういったものも必要になってくるのかなと考えております。人的配置はもちろんのこと、ITも必要ですし、環境の整備面も必要になってくるものと思っていますところでは。

関野委員

- ・今の井上委員のお話とかぶるのですが、今日行った羽鳥中学校が一番新しく築 30 年、建て替えたところは別ですけども、床とか壁の塗装がはがれていて、割れ窓理論ではないけれども、一般のビルではああいうふうに塗装がはげているのはほとんど見かけません。学校だからあれでいいというのは思いません。子どもたちもきれいな環境の中で生活した方が心も落ち着くと思いますし、環境としても絶対いいと思いますので、せっかく、今日行った羽鳥中学校などは一生懸命掃除をして、すごくきれいにしているけれども、校舎が古くて、どうしても薄暗く感じてしまうところがあるので、その辺に関しては予算をつけられるのであれば、つけていただいた方がいいのかなと思いました。

小竹委員

- ・少子高齢化と言われて子どもの数は少なくなっていますが、社会的な多様性の問題で、教育の現場は忙しくなる一方のように感じます。関野委員がおっしゃったように、今、学校を見学させていただいておりますけれども、今日行った一番新しい羽鳥中学校ですらも 30 年たっていて、いろいろなところがはがれて、傷んでいます。人というのは人、物をつくるけれども、その家の中に入って人はつくられるという部分もあるので、その中で正しい心、明るい心、笑顔、そういうものが育まれればいいと思います。教育長がおっしゃったように、人を育てるのに人にまさる道具はないと私も思いますけれども、人の力には限界があるので、それを補助していただけるような機械とか財源とかも、よろしくお願ひしたいと思っています。

阪井委員

- ・私も学校を見学して気づいたのは、校長先生からお聞きしました「子どもの貧困化」が大きな問題になっているということです。その中において、子どもの学習への意欲、態度は、生活の基礎、基盤がしっかりできている上に乗ったものだと思います。そういう意味では、その子たちが安定して学業に取り組まれるような支援制度が必要かと思います。そしてまた、学校においては1つのクラスに約 40 人弱の子どもがいるわけですけども、学力の差がある子どもたちが同じ教室の中で学んでいるというところに無理があるのではないかと思います。今日伺った学校は数学の時間でしたけれども、小人数で対応されていて、学力の進んだ子どもと少し遅れている子どもと分けて学習をしていて、非常に教育効果があるのかなということを感じました。その学力差のある子どもたちが同じ教室で学ぶよりも、それぞれに合った学びができることが、子どもの学習意欲の向上にもなりますし、将来、未来ということが感じられる、できたという気持ちが1つでもあることが夢を持つことでもあり、笑顔にもなれることかと思ひます。先生方のご多忙化を考えると、教職員の配置を厚くしていくことは、何にも勝る優先事項ではないかと思ひます。

鈴木市長

- ・学校の中で、人材を満足に増やしていくことは一遍にでき得ないところもありまして、そういった意味でも校務支援のコンピュータ、あるいはシステムを入れたり、給食の公会計化にしたり、そういったことで利用融合を持っていただいて、本来の教育業務に尽力してもらおう。こういった方法を取って当面はいきたいと思っております。特に、授業等ではタブレット端末等を3台ということは、まだ、まだ授業を試行的にやっていたところもありますけれども、わかりやすいという点では非常に効果があるというデータも出ておりますので、予算措置もあるけれども、予算をつけても学校で使いこなしてもらわないといけないので、こういったことを見ながらやっていきたいというようなことも考えております。
- ・また、いじめとかいろいろな課題等もありますけれども、担任を持っていてすべての子に対応していくのは、課題のある子に対して十分な対応ができないことも認識しておりますので、こういったことも限られた人材と予算の中でどのようなことが効果的にできるか、ちょっとした対応でできる場合もあるかもしれませんので、こういったことも考えていければと思っております。
- ・また、子どもの貧困化など今日的な課題も多くあり、どういう支援が効果的なのか、学力等の問題も含めて一部放課後等に学習支援等を行っておりますけれども、こういったことが効果があるのか相談しながら、対応を図っていければよろしいかと考えております。他に何かありますか。

吉田委員

- ・今、たくさんおっしゃっていただいて希望が持てる感じですがけれども、教育委員会としてもどういった方向性で藤沢の教育を行っていくのか、子どもたちをどんなふうに育てていくのがいいのかということも十分協議した上で、どんな支援をしていただく、どんな予算措置をしていただくのがいいのかということもしっかり考えていきたいと思っております。お金には限りがありますので、その限りあるお金を有効に使って、先生方の多忙化や子どもたちの健全な育成のために、どう使っていくのかということを考えていきたいと思っております。
- ・先ほどのタブレットもそうですけれども、パイロット校を2校つくって、実際に子どもたちが運用している姿を市長にも昨年見に来ていただいたのですが、本当に効果があることは間違いありませんが、それも授業との絡みで、どういう授業づくりをしていくのがよいかということも十分に協議をした中で、予算の方もいろいろな形で要望させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

鈴木市長

- ・今までは教育委員会は教育委員会ということで、なかなかこのようにお話することもできなかったのですが、「総合教育会議」ということで、極力同じ目線から物事を考えながら、適切な予算措置を図っていければと思っておりますし、建物等の環境整備の部分については、これまたハードな部分は莫大なお金もかかるものですから、計画的にいろいろやっていければと思っております。いずれにしても、子どもたちは藤沢の財産であり、健全な育成をしてもらいたい。そして笑顔でい

てほしいということは一貫しているところですので、ぜひ今後ともよろしくお願ひしたいと思っております。予算についてはこの程度にいたします。事務局にマイクをお返しします。


事務局（司会）

- ・その他についてありますか。事務局からその点については特にありませんので、本日の議題についてはすべてご議論いただいたということでございますので、次回についての開催予定をご説明いたします。次回は、9月10日（木）18時30分からということで予定させていただきたいと思ひます。
- ・それから議事録の署名については、事務局で作成しまして、署名をいただいた後に、ホームページ等で公表してまいりたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。
- ・これは確認ですが、予算の要望につきましては、本日、さまざまご議論、ご意見をいただきましたが、来年度の予算については、次回でも間に合いますので、改めて協議をしていただければと思ひますので、よろしくお願ひします。それでは、他にございませんでしたら、以上をもちまして、第2回総合教育会議を終了とさせていただきます。 （午後2時47分 閉会）

2015年（平成27年）8月25日

この会議の経過を記載し相違ないことを確認する。

藤 沢 市 長

鈴木恒夫 

藤沢市教育委員会委員

関野真一郎 